

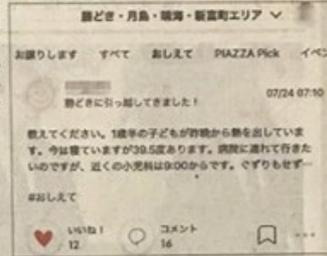
ご近所の輪 SNSで

枝豆通じて交流

「近所同士をSNSでつなぐサービスが首都圏で広がっている。情報交換や物の譲渡にとどまらず、サークル活動に発展するケースもある。情報の発信力に注目し、自治体が協定に乗り出す動きも出ている。」

地域別サービス活況

「水やりをするために集まった枝豆プロジェクトのメンバー。東京都中央区勝どきでヒアツツアのタイムライン。同社提供」



「大きなつながり」 「ヒールを片手に、食べるのが楽しみだね」 6月下旬、東京都中央区勝どきで、住民ら6人が眺めていたのは、ヒル敷地の花壇に植えた枝豆の苗だ。知り合ったきつかけは、地域SNSアプリ「ヒアツツア」(本社・東京)。スマホなどで見られるタイムラインに4月、「勝どきで枝豆を育て収穫祭を行うプロジェクトを立ち上げます」と投稿があった。プロジェクトと投稿があった。プロジェクトと投稿があった。プロジェクトと投稿があった。

「近所同士をSNSでつなぐサービスが首都圏で広がっている。情報交換や物の譲渡にとどまらず、サークル活動に発展するケースもある。情報の発信力に注目し、自治体が協定に乗り出す動きも出ている。」

生の地元情報人気

幹事の市川龍之さん(39)は「枝豆を通じて多くの人とつながれた。実際に会う機会もあり、地域の一員になっていく実感が湧いてくる」と話した。ヒアツツアは2015年にサービスを開始した。現在は「勝どき・月島・晴海・新富町」「麻布・六本木」「武蔵小杉・新丸子・元住吉」など14地域が対象だ。住人が自分の地域を選び、名前やキャッチコピー、メールアドレスなどを登録して利用する。料金はかからない。

サークルに発展も

同社の調査によると、勝どき・豊洲を中心とした東京湾岸エリアでは、30〜40代の区民の約30%が利用。同社の矢野昇平社長(38)は「結婚などを機に初めて東京に来たママは特に心細さを感じる。地域SNSで仲間の輪を広げる人も珍しくない」と話す。タイムライン上で交わされている情報はおすすめの病院や幼稚園、着なくなった子供服の譲渡など様々。ママ交流会や料理部など実際に地元で顔を合わせて活動するグループもできた。15年に設立されたベンチャー企業「マチマチ」(本社・東京)も、全国で無料のSNSサービスを展開している。本人確認のために携帯電話の番号の入力が必要で、メールアドレスや実名を登録する。人口密度に応じて1〜10km程度の範囲でコミュニティを作り、投稿していく。

Tokyo Evening
登山の日
2018年(平成30年)
10月3日
水曜日 夕刊
朝日新聞東京本社
〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
電話 03-3545-0131 www.asahi.com

朝日新聞

T JAPAN web
www.tjapan.jp
T JAPAN: The New York Times Style Magazine
東京・都心限定 編集・発行

個人とは何か 問う 3面
平野啓一郎さんの長編「ある男」は社会に向き合い、個人とは何かを問う。息苦しい現代に、小説ができることとは。

藍商 思わぬ転機に 4面
生産台数が累計1億を超える小型バイク・スーパーカブの発売は60年前。阿波の藍の商いから出た企業に思わぬ転機をもたらした。

日常化する「孤独死」 7面
誰にもみとられない「孤独死」遺品整理業者が増えるなど日常化する半面、全国での該当者数の把握や対策は進んでいない。

文芸・批評	3面	円・株	2面
スポーツ	5面	TV・ラジオ	5.8面

行政、協定締結
自治体も地域SNSに注目し、運営会社と協定を結んで行政情報を発信する動きが広がっている。東京都港区や江東区、千葉県流山市など七つの自治体でヒアツツアと協定を結んでいる。7月に協定を結んだ中央区は「人口の流入が多い土地柄で、地域同士の交流も薄れている。区の広報誌だけでは情報が十分に届かない可能性がある」と、子育て情報などを投稿している。マチマチも14自治体と協定を結んでおり、今後さらに増える見通しだ。東京都渋谷区の担当者は「ネット上の緩いつながりを通して、地域のことを目に向けてもらえたら」と話す。

女性関係はひとり。「活躍」の看板は吹っ飛んだ
きょう、蛇笏。へんねの秋の風鈴鳴りにけり